



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第56回「鋳工業生産・出荷・在庫指数(速報) 2025年1月分」

今週は、2月28日に経済産業省から発表された「鋳工業生産・出荷・在庫指数(速報)」についてお伝えします。

～1月の鋳工業指数～

1月の鋳工業指数(季節調整済み)は「生産」は100.5、「出荷」が98.5、「在庫」が101.5、「在庫率」は106.7となりました。

「生産」は前月比-1.1%の下落となりました。自動車生産が正常化した自動車工業や関連部材の鉄鋼・非鉄金属工業などが生産を押し上げましたが、昨年末にかけて生産が拡大した半導体製造装置(生産用機械工業に分類)や電子部品・デバイス工業などが失速したことが低下の要因です。

「生産」の前月比は3か月連続の低下となりましたが、前年同月比では昨年5月以来8か月ぶりにプラスとなりました。

「出荷」は前月比-1.5%と2か月ぶりの低下となりました。「生産」が上昇した自動車工業は乗用車の出荷が好調で「出荷」を引き上げましたが、半導体製造装置や掘削機械など生産用機械工業や航空機用発動機部品など自動車を除く輸送機械工業の出荷が低迷し前月比で低下しました。

「在庫」は前月比+0.9%と4か月ぶりに上昇しました。「在庫」の上昇に寄与した業種としては、普通乗用車、普通トラックの在庫が上昇したことが挙げられます。

「在庫率」は前月比+0.3%と2か月ぶりの上昇となりました。生産用機械工業、自動車工業などの在庫率上昇が全体を押し上げました。

～製造工業生産予測指数～

経済産業省では毎月初旬に主要製品のその月と翌月の生産計画を調査し、製造工業生産予測指数を発表しています。それによりますと、2月の生産指数(予測値)は前月比+5.0%の105.5、3月は前月比-2.0%の103.4%と予測しています。前年同月比では、2月が+8.3%、3月が+1.7%の上昇となり、2022年9月以来の上昇幅が見込まれています。また、この予測の内訳として業種別の伸び率も発表になっています。これによりますと2、3月で大きく伸びる業種は、電子部品・デバイス工業(2月：+9.7%、3月：+3.6%、2か月で+13.6%)、生産機械工業(2月：+14.0%、3月：-1.0%、2か月で+12.9%)、化学工業(2月：+2.9%、3月：+1.1%、2か月で+4.0%)などが挙げられています。もちろん、この予測が当初通りに実現するかどうかは分かりませんが、今後の生産が伸び売上拡大が期待される業種として注目していく必要があると思います。

～今後の鉱工業生産指数の動きに注目～

「下のグラフ1をご覧ください。このグラフは実線が鉱工業生産指数を、点線は製造工業生産予測指数の2、3月の動きを示しています。

このグラフを見ると、2021年6月以降右肩下がりであった鉱工業生産が、緩やかではありますが右肩下がりから方向転換するような動きになっています。トランプ政権による、高関税政策や中国への半導体規制などで株式市場は一喜一憂の動きとなっていますが、AI（人工知能）の拡大や自動運転などの成長分野の流れは止めることが出来ないと思います。2、3月の生産予測で大きな上昇を予測している電子部品・デバイス工業などでは、これまでのAI関連に加えて、スマートフォンやパソコンなどの需要拡大も期待され、日本の半導体関連企業が得意とする分野も注目されると考えます。出遅れている日本のハイテク企業に注目しています。

グラフ1

